

# 新たな都立公園の整備と管理のあり方について（審議）



# パークマネジメントマスタープランに基づくこれまでの取組レビュー

## 基本理念1

## 都市の魅力高める公園

### 1. 国際的な観光拠点となる公園づくりプロジェクト

上野恩賜公園の再生整備を進め、令和2年度、JR上野駅公園口と入口広場が一体的につながる整備を完了した。

安全な歩行者動線による回遊性の向上や、動物園正門からの見通しの確保など良好な景観形成を図った。各公園の歴史や文化を活かした再生整備を進めることが必要である。

●指標 保全する歴史的公園数 目標：3公園 ▶実績：2公園

### 2. 庭園・植物園・動物園での「おもてなし」プロジェクト

浜離宮恩賜庭園においては、鷹のお茶屋の復元その他、茶道見学等の様々なイベントを実施した。

コロナ禍以前は年間62万人が来園し、外国人観光客も増加するなど、国内外の多くの人々をもてなした。庭園の復元と適切な維持管理等の継続と、魅力的な情報発信が課題である。

●指標 おもてなしプログラムの実施庭園・植物園・動物園数  
目標：9庭園・2植物園・4動物園 ▶実績：9庭園・2植物園・4動物園

### 3. 民間の活力導入促進プロジェクト

駒沢オリンピック公園等で官民連携によるレストラン等を設置した。

利用者ニーズに合ったメニューや多様なイベントを通じて、公園に新たなにぎわいが創出された。公園の特性や民間の参入意向等をふまえ、連携を深めていくことが課題である。

●指標 民活事業の実施状況  
目標：効果的に実施 ▶実績：4公園で施設設置、17公園で規制緩和イベント実施

## 基本理念2

## 高度防災都市を支える公園

### 4. 防災公園機能強化プロジェクト

災害時に使用する非常用発電設備、夜間照明、情報提供のためのデジタルサイネージ等の整備とともに、各公園で地域や消防署と連携した防災訓練を実施した。

施設整備や訓練を通じて非常時に備えた体制の構築が進み、避難場所としての機能が向上した。震災対策の継続に加え、風水害等の災害へ対応することも必要である。

●指標 機能強化充実事業の実施防災公園数  
目標：63公園 ▶実績：59公園で事業着手（27公園で完了）

### 5. 都立公園の安全・快適プロジェクト

安全で快適な利用のため、死角となりうる場所の植栽の重点的な刈込による見通しの維持や、利用者の声を反映したトイレの清掃等、各公園の状況に応じた管理、改修を実施した。

来園者からの「園内の安全・安心感」の評価は向上するとともに、コロナ禍では密になりにくい身近な憩いの場としての効果を発揮した。また、トイレやベンチ等の清潔さや快適性を求める声は大きく、対応が必要である。

●指標 「園内の安全・安心感」の満足度（5段階）  
目標：平成25年実績（4.4）以上 ▶実績：4.6

※各プロジェクトの目標年次は令和6年度（2は令和2年度、4は令和7年度）  
実績は令和3年度末時点

# パークマネジメントマスタープランに基づくこれまでの取組レビュー

基本理念3

生命を育む環境を次世代に継承する公園

## 6. 水と緑の骨格軸形成プロジェクト

狭山丘陵に位置する中藤公園や、玉川上水に隣接する高井戸公園を新たに開園し、既設公園は30公園で更なる拡張を実施した。

緑の拠点を創出するとともに、丘陵地の保全や玉川上水に連なる緑の整備により、厚みとつながりのある緑の充実に寄与した。更なる創出に向けた取組が必要である。

●指標 新規開園面積 目標：170ha ▶実績：約48ha

## 7. 都立公園の生物多様性向上プロジェクト

生物生育・生息空間の整備・管理を行う「多様な生物が生息する都立公園づくり事業」や、池のかいぼりを実施した。

外来種の駆除や水質改善による井の頭池での在来水草の野生復活等、生育・生息地保全の取組が進み、生物多様性の向上に寄与した。順応的管理を継続して実施していく必要がある。

●指標 生物生息・生育空間としての環境整備実施公園数  
目標：31公園 ▶実績：21公園

## 8. 自然とのふれあいプロジェクト

各公園でボランティア等との協働による自然観察会などの自然体験プログラムを実施し、令和3年度は38公園で約35,000人が参加した。

身近な自然とのふれあいの場の提供等により、来園者から「緑などの自然の豊かさ」について高い評価を得た。多様なプログラムを展開し、更なる充実が必要である。

●指標 「緑などの自然の豊かさ」の満足度（5段階）  
目標：平成25年実績（4.7）以上 ▶実績：4.7

基本理念4

豊かな生活の核となる公園

## 9. 都立公園の魅力向上プロジェクト

令和3年度は、スポーツや子供向けイベント等に48公園で約30,000人が参加した。こうした各種イベントの実施など、魅力を高める取組を推進した。

「総合満足度」は来園者から高い評価を得ており、多くの来園者にとって魅力ある空間となった。あらゆる来園者の心に残る空間づくりを更に進める必要がある。

●指標 公園の総合満足度（5段階）  
目標：平成25年実績（4.6）以上 ▶実績：4.7

## 10. パートナーシップ推進プロジェクト

「都立公園サポーター基金」への寄付を受け、展示やイベント等の様々な事業を実施した。

様々な主体と協働した公園運営が根付いた。寄付とともに管理運営における協働など、地域住民等あらゆる主体との更なる連携を深めていく必要がある。

●指標 都民からの寄付受入の実施状況 目標：効果的に実施  
▶実績：「都立公園サポーター基金」に約5,000万円の寄付

各プロジェクトの取組により、地域の憩いの場となるだけでなく国際的な観光拠点としての魅力向上や、自然環境の保全、防災機能の拡充等が進んできた。

# 東京都の総合計画（「未来の東京」戦略）

## 「『未来の東京』戦略」（令和3年3月策定）における、2040年代に目指す東京の姿

都立公園事業が位置付けられているビジョン

- 01 子供の笑顔と子供を産み育てたい人で溢れ、家族の絆と社会が支える東京
- 02 新たな教育モデルにより、すべての子供・若者が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ東京
- 03 女性が自らの希望に応じた生き方を選択し、自分らしく輝いている東京
- 04 高齢者が人生100年時代に元気に活躍し、心豊かに暮らす東京
- 05 誰もが自分らしくポジティブに働き、活躍できる東京
- 06 様々な人が共に暮らし、多様性に富んだ東京
- 07 誰もが集い、支え合う居場所・コミュニティが地域の至る所に存在する東京
- 08 災害の脅威から都民を守る強靱で美しい東京
- 09 犯罪、事故、火災への対処、病気への備えなど、暮らしの安心が守られた東京
- 10 高度な都市機能と自然が調和し、人が集い、憩う東京
- 11 最高の交通ネットワークが構築された便利で快適な東京
- 12 デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、都民が質の高い生活を送る「スマート東京」(東京版Society 5.0)
- 13 世界中からヒト・モノ・カネ・情報が集まる、世界一オープンな東京
- 14 次々と新しい産業が生まれる、世界一のスタートアップ都市・東京
- 15 世界一の高い生産性を実現した、世界経済を牽引する東京
- 16 水と緑を一層豊かにし、ゆとりと潤いのある東京
- 17 ゼロエミッション東京
- 18 文化やエンターテインメントで世界を惹きつける東京
- 19 スポーツが日常に溶け込んでいる、スポーツフィールド・東京
- 20 全国各地との連携を深め、真の共存共栄を実現した東京

## 「未来の東京」戦略 version up 2022（令和4年2月策定）における、政策をバージョンアップする6つの切り口

- |                |                        |                 |                        |
|----------------|------------------------|-----------------|------------------------|
| ①安全安心          | 都民の命と生活を守る<br>基盤「危機管理」 | ④グローバル          | 世界から選ばれる<br>金融・経済・文化都市 |
| ②共生社会          | バリアフリー<br>「段差のない社会」    | ⑤チルドレン<br>ファースト | 子供の目線からの<br>政策展開       |
| ③グリーン&<br>デジタル | 自然と共生した<br>持続可能な都市     | ⑥都政の<br>構造改革    | シン・トセイの加速              |

## 「未来の東京」戦略 version up 2023（令和5年1月策定）における、政策をバージョンアップする主な分野

- |                     |                                       |
|---------------------|---------------------------------------|
| ①成長の源泉となる「人」        | 都市の発展に不可欠な推進力となる、「人」の力を高め、「人」の力を引き出す  |
| ②世界から選ばれ・世界をリードする都市 | 東京の魅力を磨き上げ、新たな成長の芽を育て、世界から選ばれる        |
| ③安全・安心でサステナブルな東京    | 全ての都市活動の基盤となる「安全・安心」を確保し、持続可能な未来を実現する |
| ④従来の枠組みを超えた取組       | 成長の障壁となる社会構造・ルールを改革                   |

# 検討に向けたアプローチ

- これまでの成果をふまえ、公園の機能がより発揮されるよう、更に取り組を進めていく必要がある。
- 気候変動への対応や感染症との共存、デジタル技術の飛躍的な革新等、時代の転換点を迎え、様々な分野・場面において今まで当然と考えられていたことが劇的に変化していく中、長期的な視点を持ち、想像力を働かせ、時代の先を見据えた取組が必要である。



## ■将来を展望

- ・一世代先を見据えた取組としていくため、今の子供たちが大人になり社会で活躍し、団塊ジュニア世代が高齢期を迎える時期である、おおむね20年程度先の2040年代を想定

- 2040年代における公園利用者やまちづくりが求めるものを踏まえ、新たな都立公園の姿を明らかにする。その上で、現在からそこに至る道筋となる取組の方向性を定めていく。

# 検討にあたっての視点

## ■公園の持つ機能

### 良好な都市環境の提供

- ・都市景観の向上
- ・地球温暖化の防止
- ・ヒートアイランド現象の緩和
- ・生物多様性の保全

### 都市の安全性の向上

- ・地震等の災害から都民を守る

### レクリエーションや憩いの場の形成

- ・幅広い年齢層の自然とのふれあい
- ・レクリエーション活動、健康運動、文化活動等多様な活動の拠点

### 豊かな地域づくりと地域の活性化

- ・地域間の交流や連携の拠点

## ■現マスタープランでの目指すべき方向性

基本理念1  
都市の魅力を高める公園

基本理念2  
高度防災都市を支える公園

基本理念3  
生命を育む環境を次世代に継承する公園

基本理念4  
豊かな生活の核となる公園



## ■検討の視点（案）

公園の持つ機能を発揮させる取組を拡充しつつ、さらに先を見据えた取組の充実を図っていく

生物多様性保全

地震対策

風水害対策

地球温暖化・脱炭素社会への対応

感染症対策

歴史と文化の継承、発信

子どもが育ち、育てる場

都民のウェルビーイング向上

人中心の歩きやすいまちづくり

インクルーシブな公園づくり

多様な主体との連携DX

グリーンインフラ

SDGs

## 目指す2040年代の都立公園の姿

●丘陵地や河川、崖線等とともに水と緑のネットワークを形成し、厚みとつながりのある緑が東京のみどりの骨格となっている。

●地域のみどりの核となり、うるおいや安らぎをもたらしている。

●グリーンインフラとして、自然環境が有する多様な機能を発揮し、成長と成熟が両立した持続可能な東京に寄与している。

## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

○公園整備（新規公園の開園や既設公園の拡張）の推進

○自然条件や社会条件等、各公園の特性を活かした整備・管理の推進

○自然環境が有する多様な機能を高め、より効果的に発揮させるための整備と管理

○グリーンインフラとしての効果の可視化と発信

等



## 目指す2040年代の都立公園の姿

●様々な生物の生息・生育を支える重要な拠点の一つとなっており、生物多様性の価値や重要性の発信により都民の理解が深まっている。

- 効果的、順応的な維持管理を行い、生物の生息・生育空間が保全・再生、創出されている。
- 動植物園を核に、野生生物の保護増殖に取り組み、生物多様性保全の中心的役割を果たしている。
- 自然とのふれあいや環境学習を通じて、生物多様性の価値を広く都民が認識し、行動変容が進んでいる。



## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

- 公園整備による生物の生息・生育環境確保
- 生息・生育環境の質を高める整備や順応的管理、特定外来生物やナラ枯れへの対策、丘陵地公園等の里山保全等による健全な生態系の維持
- 公園管理者のほか、ボランティアや学校など、様々な主体による環境教育や保全活動の充実
- 科学的データを蓄積・公表し、これに基づく整備・管理の推進
- 30by30目標の達成に向けたOECM（保護地域ではないが、効果的な保全が行われている場）認定など、国や国際的な動向との連携
- 動植物園における希少種の保護・増殖など、野生生物保全に向けた取組の充実 等



## 目指す2040年代の都立公園の姿

●カーボンマイナス公園となっており、2050年ゼロエミッションの実現に大きく寄与している。

○公園整備に伴う植栽と樹木の健全な育成が進んでおり、主要なCO2吸収源の一つとなっている。

○維持管理に使用する器具類や車両はCO2を排出しないものになるなど、ゼロエミッション化が進んでいる。

○クールアイランドを形成し、まちなかでも公園でも涼しく過ごすことができる。

## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

○公園整備（新規公園の開園や既設公園の拡張）の推進

○CO2吸収等の植物の持つ機能を活かせるよう、雑木林の更新等、植栽地の適切な維持管理

○公園施設での太陽光発電利用や管理車両へのEV車導入など、再生可能エネルギーを活用し、環境負荷を抑えた整備・管理の推進

等



## 目指す2040年代の都立公園の姿

●東京の歴史や文化を次世代に継承するとともに、国内外に効果的に発信している。

○文化財庭園は往時の姿を取り戻し、多くの人  
が訪れ、魅了されている。

○地域の歴史や文化を伝える拠点となり、地域  
に対する住民の誇りと愛着を高めている。

## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

○開園百年を迎える等、長い歴史を有する公  
園において、その歴史的特性を踏まえた再  
生整備の推進

○文化財庭園の保存、修復や復元等の実施と、  
これらを支える伝統技術の継承

○誰もが公園の成り立ちや地域の歴史・文化  
を学び、体験できる場の提供

○バーチャルコンテンツ等、多様な手法によ  
る情報発信

等

## 目指す2040年代の都立公園の姿

### ●災害時に、救出救助の活動拠点や避難場所等として、都民の命を守っている。

○活動と避難のための空間が十分に確保されるとともに、災害に使用する防災施設が充実している。

○多様な主体と連携した訓練や普及啓発により、危機意識の共有が進み、自助・共助が一層強化している。

○発災時には各公園の避難状況等がリアルタイムで把握でき、災害情報が提供されている。

## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

○救出救助の活動拠点や避難場所等となる公園整備の推進

○非常用発電設備等、災害時に利活用できる防災設備の拡充

○平常時から地元自治体や関連機関と共同での防災訓練を継続する等、連携を強化し、発災時のきめ細やかな対応の迅速化

○平常時・災害時のいずれでも活用できるフェーズフリーな施設の充実

等

## 目指す2040年代の都立公園の姿

●グリーンインフラとして自然の持つ防災機能が発揮され、浸水被害、土砂災害などの軽減に寄与している。

○雨水の貯留・浸透機能が向上するとともに、高台化等により浸水時の避難する場所や経路等が確保されている。

○多様な主体と連携した訓練や普及啓発により危機意識の共有が進み、自助・共助が一層強化している。

○災害時には各公園の避難状況等がリアルタイムで把握でき、災害情報が提供されている。

## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

○公園整備による雨水貯留・浸透機能の拡充

○透水性舗装や浸透ます等、雨水貯留・浸透機能を高める施設等の整備と適切な維持管理

○スーパー堤防整備や土地区画整理事業等と連携した、高台まちづくりの推進

○丘陵地公園等における土砂崩れ防止のための法面保護対策の強化

○平常時・災害時のいずれでも活用できるフェーズフリーな施設の充実



## 目指す2040年代の都立公園の姿

●誰もが利用できる開放的で安全な空間として、いつでも安心して日常利用されている。

○自然環境を活かしたゆとりと賑わいのある空間が、レクリエーションや健康維持等の場として、日常生活の一部となっている。

○リアルタイムで混雑状況等が確認でき、施設や広場等を安心して利用できる。

○オンラインでも、デジタル技術の強みを生かした公園利用を楽しむことができる。

## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

○トイレ等の公園施設における非接触型設備の拡充

○人流データの把握と混雑情報の発信

○キャッシュレス決済対応や手続きの完全オンライン化

○バーチャルコンテンツ等、多様な手法による公園利用の推進



等



## 目指す2040年代の都立公園の姿

### ●安心して子育てができ、子供の笑顔があふれている

- 子供が伸び伸びと遊び、様々な体験ができる空間、施設が充実している。
- 遊びを通じて子供同士の交流等が生まれ、子どもが自ら成長する場として活用されている。
- 子供たちの学校以外の学びの場として利用され、成長する機会につながっている。



## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

- 子供が安心して楽しめ、子育てをサポートする、屋内遊び場等の施設整備の推進、イベント等のプログラムの充実
- 地元自治体等と連携したプレーパークの拡充
- 環境、歴史、健康、食育など、公園ならではの多彩な学びの場として活用
- 公園の管理運営や子供の見守り等への参画を通じて、地域住民と協働による、子供が育つ場づくりの推進

○子供目線に立った取組の推進



## 目指す2040年代の都立公園の姿

●誰もが、休息や運動等、思い思いに気軽に利用し、自分らしく過ごすことができている。

○独りでも、家族でも、誰と出かけても、居心地良く過ごすことができる空間、施設が充実している。

○年齢に関わらず、スポーツや体を動かすことで、健康が維持・増進でき、生き生きと暮らしている。

○ボランティア活動への参加等が自己実現につながるのと同時に、多様な人々の交流や様々なコミュニティが生み出されている。



## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

○誰もが自由に過ごすことができ、居場所となる空間の確保・創出

○ウォーキング等の気軽に楽しめる運動ができる環境や、多様なスポーツに対応できる運動施設・広場の拡充

○誰もが気軽に様々な体験が可能なプログラムの実施

○利用者からの提案を取り入れること等により、思い思いの過ごし方の実現

○リアルに加え、SNS等も活用した交流の促進

## 目指す2040年代の都立公園の姿

●公園を核に様々な主体が連携して、歩いて楽しむまちづくりが進んでいる。

○くつろぎやにぎわいをもたらす、緑豊かな空間が街歩きの目的地になっている。

○いつでも気軽に立ち寄り、休憩や散策等を楽しむことができ、街全体の回遊性の向上に寄与している。

○地域や都民等の多様な主体をつなぎ、公園を中心としたエリアマネジメントが進んでいる。



## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

○公園のみどりの機能を保ちつつ、民間活力をとり入れた整備や管理によるにぎわいの創出

○バリアフリー化の一層の推進

○河川等との連携による回遊性の向上

○利用者からの提案を取り入れる等により、思い思いの過ごし方の実現

○花の魅力の充実や光の演出による安らぎと彩の提供、ヘブンアーティスト等芸術文化活動によるにぎわいの創出

## 目指す2040年代の都立公園の姿

●ソーシャル・インクルージョンの考え方に立って、障がいの有無や国籍などに関わらず、誰もが安心して快適に利用している。

○園内を移動する複数のバリアフリールートが設置されるなど、質の高いバリアフリー環境が確保されている。

○様々な人が相互理解を深めることができる機会や場が設けられており、多様な人が共に支え合い、お互いを認め合い、生き生きとした時間を過ごしている。

## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

○バリアフリー化や多言語化等、訪れた誰もが使いやすい施設の整備

○互いの違いを理解し合い支え合う、誰もが遊べる児童遊具広場の整備

○多様な関係者が参画する仕組みづくり

○パラスポーツの実施と魅力を伝える場の提供

○様々な障がいをもつ人等に配慮した防災活動の充実

○多様な来園者の交流の場となるアクティビティの実施・充実



## 目指す2040年代の都立公園の姿

●デジタル化した情報の共有・活用により、効果的、効率的な整備や管理が行われ、質の高い環境とニーズに応じたサービスが提供されている。

○蓄積されたデータに基づく樹木管理や、利用状況に応じた清掃等により、良好な環境が保全され、誰もが快適に利用できる。

○諸手続きは全てオンラインとなり、開花情報や混雑状況などの情報がリアルタイムで発信されている。

○オンラインで誰もが気軽に交流ができ、利用者の声が整備や管理に反映されている。

## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

○ICT施工やBIM/CIMの導入

○樹木や公園施設等の情報のデータベース化と管理への活用

○人流等の把握し、混雑情報等の発信

○キャッシュレス決済対応や手続きのオンライン化

○バーチャルコンテンツ等、多様な手法による情報発信や公園利用を推進

○SNS等も活用した交流の促進

## 目指す2040年代の都立公園の姿

●様々な主体、多様な人々が相互に連携しながら整備や管理に参加し、多様なニーズに対応した、新たな魅力が生み出されている。

○都民や地元自治体、町会・自治会、NPO、企業等がそれぞれの強みを生かして整備や管理に関わっている。

○公園を特徴づける活動や地域に根付いた取組が活性化し、地域の価値や魅力を高めている。



## 道筋となる取組の方向性（2030年代へ）

○地元自治体や地域住民、民間事業者等の多様な主体とのパークミーティングや管理運営協議会等の設置・開催

○ボランティア、近隣の学校等、様々な主体による環境教育や保全活動等の充実

○地元自治体等と連携したプレーパークの拡充

○公園管理運営や子供の見守り等への地域住民の参画を促進し、協働による子供が育つ場づくりの推進

○民間のノウハウを生かした施設運営と利用促進



# 検討スケジュール

